

# がん治療の今

22

## 3大治療の一つ

化学療法(がん薬物療法)は、手術、放射線治療と並ぶ「がんの3大治療」の一つで、「抗がん剤」と「がん細胞を狙って作用し治療効果の高い「分子標的治療薬」、

「ホルモン療法」があります。また、がん免疫療法についても、最近新たに一部のがんで承認され、製鉄記念室蘭病院でも治療を始めています。

## 化学療法

# 最善策を一緒に考える

化学療法の目的は、がんを治癒させるため、転移や再発するのを防ぐため、症状を和らげるためなど、さまざまです。手術前後に行うほか、治療効果が高めるために放射線治療と併用する方法もあります。

近年、治療による副作用対策も進歩しており、「抗がん剤治療は、入院して受ける」とするイメージは大きく変化してきました。そして、がん対策基本法の制定や診療報酬の改定、包括医療制度の導入もきっかけとなり、治療を実施する主な場所は、入院から通院へと移行しています。

製鉄記念室蘭病院のがん薬物療法の実施件数は、年間4千件程度で推移しています。そのうち、外来治療は約2,800件

と、約7割が通院治療です。2008年(平成20年)に外来化学療法センターを開設して以来、患者数は年々増加傾向です。14

年(同26年)のがん診療センター開設を受け、外来化学療法センターのベッド数も、これまでの10床から55床へ増床されたことを受け、より多くの患者の受け入れが可能となりました。

また、点滴や注射に限らず、経口(飲み薬)の抗がん剤や分子標的治療薬で治療を受ける患者も、医師や薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー

ら協力し、日常生活の不安に比べ、お薬の説明や副作用の対処方法について相談できる態勢を整えています。

通院治療のメリットは、自分らしい生活を送ることができることです。本来のライフスタイルをできるだけ維持しながらも、仕事や家庭での役割を遂行し、また、家族や大切な人と過ごす時間を持ちながら、治療を続けることができます。

しかし、その背景には、患者や家族の不安や苦勞があることも忘れてはなりません。副作用や治療費の心配だけでなく、いつまで治療が続くのか、

## 自分らしい生活

家で困ったときの対処法を事前にお知らせしたり、副作用でつらい思いをさせないようにガイドラインに沿った治療や、標準的な副作用対策の提供、「つらいことをつらい」と言ってもらえる関係づくりなどのケアを心掛けています。

現在は、インターネットや書籍などの情報があふれており、中には治療への誤解や不安を助長するものもあるかもしれません。正しい情報を伝えながら、何が最善な方法なのかを一緒に考えます。さまざまな事でも遠慮なく、医療者にご相談ください。

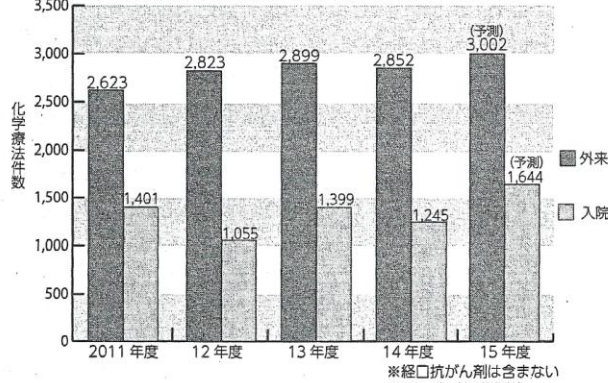
製鉄記念室蘭病院の外来化学療法センター

などの不安や悩みを抱えている。体調が良くて元気に動けるときもあれば、副作用や病気による症状で何もできないときもあり。前回に考えられるときもあれば、治療をやめたくなるときもあります。また、何のために治療をしているのか、分らないくなるときもあります。

外来化学療法センターのスタッフは、安全な医療を提供することだけでなく、患者に寄り添った姿勢も大切にしています。

製鉄記念室蘭病院の外来化学療法センター

製鉄記念室蘭病院の化学療法件数の年度推移



製鉄記念室蘭病院の外来化学療法センター



かんばら・かなこ  
2002年(平成14年)新製鉄室蘭総合病院(現製鉄記念室蘭病院)入職。外来化学療法センター主任。11年がん化学療法看護認定看護師取得。35歳。

製鉄記念室蘭病院 認定看護師・蒲原香奈子さん